

## Social

## 品質と製品安全

社会課題に  
対する考え方

お客さまの満足と信頼を得るには、製品そのものの品質と安全性に加え、環境への配慮や緊急時の体制づくりなども含めた総合的な取り組みが求められています。

アンリツグループの社会的使命は「安全・安心で豊かな社会」の実現に貢献していくことです。その使命を達成するた

めには、左記の課題に対応した上で「安全・安心な製品」を提供していくことが必須条件であると考えます。特に電気機器を提供するアンリツとしては、製品事故防止に一元となって取り組んでいく責任があり、グループ横断的な品質向上に努めています。

## 方針

アンリツは、「誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」という経営理念の下、お客さまと社会に満足される商品とサービスを提供するために、国内アンリツグループ共通の品質方針および行動指針を定め、品質向上を図っています。

## 品質方針

顧客と社会に満足される商品を誠と和と意欲をもってつくる。

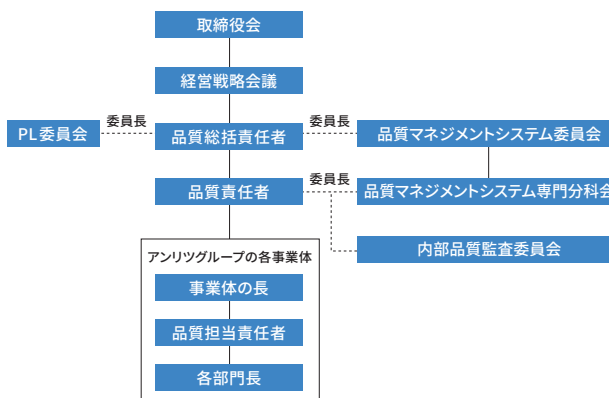
## 品質方針に関する行動指針

- ・不具合品を出さぬよう、仕事に誠心誠意取り組む。
- ・後工程はお客様。全体の調和を配慮し行動する。
- ・意欲をもって、改善提案する。

## 体制

国内アンリツグループでは、下図の体制で、品質マネジメントシステムの適切な運用、製品品質の維持・向上と保証を図っています。

## 国内アンリツグループの品質マネジメントシステム体制



## 品質マネジメントシステム委員会

品質総括責任者(アンリツ(株)品質総括役員)を委員長とし、各カンパニーのプレジデントおよび製品に関わる国内アンリツグループ各社の社長で構成されています。品質の状況は、品質総括役員が、毎年取締役会、経営戦略会議で報告しています。

## 品質マネジメントシステム専門分科会

品質マネジメントシステム委員会の下部組織であり、品質責任者が委員長を務め、アンリツ(株)の各カンパニー、国内アンリツグループ各社などの品質担当責任者で構成されています。全グループ会社共通の方針策定や取り組みを推進し、横断的な品質向上に努めています。

## 内部品質監査委員会

品質責任者が委員長を務め、品質に関する内部監査を行っています。

## PL委員会

品質総括責任者を委員長とし、広報、法務、内部統制、資材、サービス部門と各カンパニーの品質担当責任者で構成されています。製品事故が発生した場合の対応や製品事故予防システムの整備および再発防止に向けた取り組みを行っています。

## ISO 9001 取得状況

品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001の認証を1993年から取得しています。製品実現プロセスに関わる組織のISO 9001の認証カバー率は100%であり、製品の設計・開発から製造・サービス・保守に至るまで一貫した品質管理をグローバルに展開しています。

なお、アンリツグループの総人員数をベースとした場合の認証カバー率は約74%です。

WEB ISO 9001 認証取得会社一覧

## 目標

国内アンリツグループでは、2021年度から2023年度までの3カ年を計画期間とした、中期経営計画「GLP2023 品質イニシアチブ」において、以下の4つのテーマを設定して活動しています。

### GLP2023 品質イニシアチブ

テーマ	主な取り組み
1. 事業プロセスにおけるマネジメントシステムの有効性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>QMS適用範囲の拡大検討</li> <li>監査員事前教育による内部品質監査の有効性向上</li> </ul>
2. 組織の品質マインドの定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質意識の底上げによる品質要求対応力の向上</li> </ul>
3. 法令順守・製品安全管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令/規制の情報共有の仕組み構築</li> <li>製品安全指定物質の管理部品データ利活用の拡大</li> </ul>
4. 品質におけるグローバル活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル品質情報サイトの継続的改善</li> </ul>

## 取り組み／活動実績

### 事業プロセスにおけるマネジメントシステムの有効性向上

#### QMS適用範囲の拡大検討

M&A、新規事業による事業拡大において、品質マネジメントシステム(QMS)の適用を適時、迅速に行うために、QMS統合認証などの最適化の検討を開始しました。QMSの速やかな適用判断と立ち上げおよびMS活用を通じて、事業目標の達成、シナジーが発揮できる運用の確立を目指します。

## 内部品質監査の有効性向上

監査のばらつきを低減し、質の向上を図り、監査の有効性を向上させるために、これまで3年ごとに実施していた内部監査員の資格更新教育を、毎年、監査実施直前に実施するよう変更しました。

また、2020年度に続き、2021年度も品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステム双方の監査の統合実施を試行しました。今後も、限られた時間で有効性を確保できる監査方法を検討していきます。

## 組織の品質マインドの定着

2021年度は、10月に「製品安全」をポイントとした製品安全教育、11月に品質管理教育を実施しました。また、「なぜなぜ分析」の実践教育を東北アンリツ(株)を中心に実施しました。各教育においてはアンケートを行い、品質意識向上の傾向を継続して確認しています。こうした品質教育の継続実施は、不良コスト減少につながっていると評価しています。

## 法令順守・製品安全管理の強化

アンリツグループ内で法令/規制の情報を共有するため、Webベースでの仕組み構築に取り組んでいます。カンパニーごとに対象となる法令が異なり多岐にわたることから、2021年度は通信計測カンパニーを先行して、検討を開始しました。

また、製品安全指定物質の管理では、短絡・発煙などの製品事故につながる「赤リン」をアンリツグループ

が独自に規定している「製品安全指定物質」に指定し、調達する部品への含有を制限しています。2021年度は、「赤リン」含有部品の設計時利用制限の仕組みを当初計画より1年前倒しで構築し、試行を開始しました。2022年度からは本格的に運用を開始しています。

### グローバル活動の推進

2019年度よりグローバル品質情報サイトを開設し、世界の製品関連法規制などを海外アンリツグループの各拠点と共有しています。この仕組みを活用し、通信計測カンパニーで、サイトに掲載する情報の選定・拡充に向けた取り組みを開始しました。

### 製品事故・法令違反の防止

アンリツでは、これまでリコールの対象となる事故、および製品安全に関する法令違反は発生していません。

国内アンリツグループでは製品事故発生時に速やかに対応できるようイントラトップページで製品事故の通報窓口を設けています。また、通報窓口への連絡を徹底するため、毎年10月に開催している企業倫理推進月間で、製品の事故に関する法律とアンリツの製品安全体制について国内外アンリツグループ全社員に教育を実施しています。さらに、法令違反の未然防止の強化を図るため、軽微な問題でも確実に捉え速やかに是正し経営層に報告する仕組みを構築し、運用しています。

製品安全に関しては、お客さまの安全確保のため、ホームページに予防保全のお知らせや点検・修理に関する

情報を自主的に掲載し、注意喚起に努めています。

### 自社製品や購入部材の品質向上

各カンパニーにおいて、お客さまからの苦情情報、お客さま満足度調査結果、日常のサポート業務からの品質関連情報などを自社製品や業務プロセスへフィードバックし、品質の向上を図っています。これらの取り組みや結果は、経営トップによる年度ごとのマネジメントレビューや品質目標にインプットされ、組織全体でPDCAを回しています。また、自社製品開発では、開発部門での製品評価に加え、品質保証部門、製造部門、サービス部門などがおのこの視点で客観的に評価し、品質向上を図っています。環境や法規制への適合性試験、温度・振動などに対する信頼性試験なども行い、安全・安心な製品、サービスの提供に努めています。

購入部材の品質については、資材部門が受入検査を行い、受入不良発生時の是正処置を実施しています。取引先さまごとに購入検査結果を調査、検証し、対処が必要な取引先さまには工場調査、改善指導などを行い品質向上を図っています。

また、当社が調達する部材のサプライチェーン全体において、ある企業が製品事故や法令違反、品質不正を起こした場合は、自社製品へ影響がないかを調査、確認し、迅速かつ適切な処置、対応を行っています。